



2022年6月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2022年5月13日

上場会社名 株式会社クレステック 上場取引所 東
 コード番号 7812 URL <https://www.crestec.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 高林 彰
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役執行役員管理部長 (氏名) 三輪 雅人 TEL 053-435-3553
 四半期報告書提出予定日 2022年5月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年6月期第3四半期の連結業績（2021年7月1日～2022年3月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年6月期第3四半期	14,063	8.6	1,097	17.5	1,165	30.0	720	56.1
2021年6月期第3四半期	12,954	0.8	933	13.4	896	14.7	461	△9.1

(注) 包括利益 2022年6月期第3四半期 1,438百万円 (60.3%) 2021年6月期第3四半期 897百万円 (131.8%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年6月期第3四半期	233.85	—
2021年6月期第3四半期	150.64	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2022年6月期第3四半期	16,893	6,351	33.2	1,820.02
2021年6月期	14,144	5,074	31.7	1,463.67

(参考) 自己資本 2022年6月期第3四半期 5,609百万円 2021年6月期 4,481百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年6月期	—	13.00	—	32.00	45.00
2022年6月期	—	29.00	—		
2022年6月期（予想）				29.00	58.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2022年6月期の連結業績予想（2021年7月1日～2022年6月30日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	17,838	3.4	1,009	△9.2	953	△10.6	588	29.7	190.87

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：有
 新規 1社（社名）株式会社マインズ、除外 ー社（社名）ー
 （注）詳細は添付資料8ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動）」をご覧ください。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：有
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2022年6月期3Q	3,248,900株	2021年6月期	3,248,900株
② 期末自己株式数	2022年6月期3Q	166,605株	2021年6月期	186,765株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2022年6月期3Q	3,082,295株	2021年6月期3Q	3,065,794株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)	8
(会計方針の変更)	8
(追加情報)	8
(企業結合等関係)	8
(セグメント情報等)	9
(収益認識関係)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

（1）経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症では新たにオミクロン株が拡大し、多くの地域でまん延防止措置が再発動され景気が停滞する中、生産活動では半導体不足や原材料、原油価格の高騰に加え、ロシアによるウクライナでの軍事作戦や、上海での新型コロナウイルス感染症対策によるロックダウンなど、先行きの見えない状況が続いております。

一方、世界経済においても、欧米では新型コロナウイルス感染症による規制緩和は進みましたが、半導体不足や原材料、原油価格の高騰などの影響で、いまだ完全回復には時間を要する状況でした。米国では、新型コロナウイルス感染症による経済活動への規制緩和により経済は回復しつつあるものの、その一方でインフレが加速し、先行きの見えない状況となっています。中国では、ゼロコロナ政策により一部生産に影響は出ているものの、全体的には順調でした。しかしながら、上海での新型コロナウイルス感染症対策によるロックダウンが始まり、生産活動への影響は大きくなりつつあります。東南アジア/南アジアでは、生産活動は徐々に回復傾向にありましたが、一部の国や地域では半導体や材料不足などもあり厳しい状況でした。

こうした経済状況のもと、当社グループの主要顧客である日系メーカーでは、各国の経済活動への規制緩和により景気回復は進み、多くの顧客において引き続き生産活動は回復傾向となりました。しかしながら、一部の顧客では半導体不足や原材料、原油価格の高騰などの影響で、いまだ先行きの見えない状況が続いております。当社グループの取引においても、多くの国や地域では徐々に生産活動は回復しておりますが、一部の国ではいまだ厳しい状況が続いています。国内では、新たにオミクロン株の拡大により、まん延防止措置が再発動されましたが、全体的に多くの顧客との取引は回復傾向にありました。東南アジアでは、新事業分野である生活用品やヘルスケア用品などの取引は引き続き堅調であり、ロックダウンの影響があったフィリピンでも市場の需要拡大にともない生産活動は回復しています。しかしながら、継続的な顧客の材料不足による生産調整や原材料価格の高騰などにより、完全回復調には至っておりません。中国では、新型コロナウイルス感染症対策によるロックダウンなどもあります。医薬品分野を中心に引き続き堅調に推移しました。

このような中、当社グループでは、新型コロナウイルス感染症による企業活動への影響を最小限に抑えるよう、国内及び海外子会社において継続的に感染防止対策を徹底するとともに、地域や拠点の感染状況に応じて従業員に対する行動規制の緩和を実施し、最適な生産活動を進めてまいりました。同時に当社グループの長期戦略方針“NEXT10”のもと、今期よりスタートしました新中期経営計画「CR Vision 20+(Plus)」の目標達成に向け、“事業強化戦略”と“体制強化戦略”の施策に取り組んでおります。その“体制強化戦略”のひとつとして、東莞クレストック社の事業内容を自社生産販売から委託生産販売（完全商社化）に変更することで、固定費の削減を図るとともに、更なる経営の効率化による収益力強化に向け、体制強化を進めております。

このような経済状況のもとで、当第3四半期連結累計期間の売上高は14,063,910千円（前年同期比8.6%増）、営業利益は1,097,078千円（前年同期比17.5%増）、経常利益は1,165,525千円（前年同期比30.0%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は720,779千円（前年同期比56.1%増）となりました。

セグメントごとの経営成績は、以下のとおりであります。

① 日本

プロモーション業務の継続的拡大や自治体事業の回復に加え、電器全般や輸送機器関連の取引が主要顧客を中心に第3四半期も引き続き復調となり、収益も堅調でした。

このような状況のもとで、日本では、当第3四半期連結累計期間の外部顧客への売上高は4,348,911千円（前年同期比13.4%増）、セグメント利益は425,513千円（前年同期比34.1%増）となりました。

② 中国地域

華東地区では、新型コロナウイルス感染症対策によるロックダウンなどの影響はあるものの、輸送機器関連の堅調な取引に加え、欧米メーカーを含めた医薬品関連の取引も引き続き堅調に推移しました。華南地区では、顧客の生産調整の回復や東莞工場の継続的な改善活動により、第3四半期も収益は引き続き改善傾向に推移しました。

このような状況のもとで、中国では、当第3四半期連結累計期間の外部顧客への売上高は3,271,790千円（前年同期比16.2%増）、セグメント利益は337,712千円（前年同期比8.4%増）となりました。

③ 東南アジア／南アジア地域

フィリピンでは、引き続き顧客の材料不足による生産調整などの影響はありましたが、やや落ち着き始めております。インドネシアでは、新型コロナウイルス感染症拡大による顧客の生産活動への影響は継続しているものの、生活用品やヘルスケア用品などの新事業分野の顧客との取引は順調に継続しており、収益も安定しています。タイでは、一部顧客の材料不足による生産調整はあるものの、全体的に顧客の生産活動が回復基調であることに加え、倉庫オペレーションなどの改善活動により収益も改善しました。ベトナムでは、新型コロナウイルス感染症拡大によるロックダウンが解除され、引き続き回復傾向にあります。

このような状況のもとで、東南アジア／南アジアでは、当第3四半期連結累計期間の外部顧客への売上高は5,323,926千円（前年同期比3.5%増）、セグメント利益は204,882千円（前年同期比36.2%増）となりました。

④ 欧米地域

米国では主要顧客である輸送機器メーカーとの取引は、半導体不足による生産調整はあるものの、引き続き堅調に推移しました。新規翻訳事業も、限定的な販売活動ではあるものの、引き続き取引は堅調に拡大しました。欧州では、主要顧客の半導体不足による生産調整の影響は回復傾向にあり、印刷や翻訳案件なども回復基調ではあるものの、材料費や人件費の高騰により、一部、収益への影響も発生しました。

このような状況のもとで、欧米では、当第3四半期連結累計期間の外部顧客への売上高は1,119,281千円（前年同期比3.7%減）、セグメント利益は134,793千円（前年同期比16.2%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は10,710,255千円となり、前連結会計年度末に比べ1,531,891千円増加いたしました。これは主に現金及び預金が1,002,337千円、受取手形及び売掛金が240,952千円、商品及び製品が148,632千円増加したことによるものであります。

固定資産は6,182,850千円となり、前連結会計年度末に比べ1,216,744千円増加いたしました。これは主に有形固定資産が1,000,680千円、顧客関連資産が179,038千円増加したことによるものであります。

この結果、総資産は16,893,105千円となり、前連結会計年度末に比べ2,748,636千円増加いたしました。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は7,819,128千円となり、前連結会計年度末に比べ1,235,257千円増加いたしました。これは主に1年内返済予定の長期借入金が120,770千円減少しましたが短期借入金が1,196,758千円、支払手形及び買掛金が209,086千円増加したことによるものであります。

固定負債は2,722,644千円となり、前連結会計年度末に比べ236,212千円増加いたしました。これは主にリース債務が144,029千円減少しましたが、長期借入金が186,892千円、退職給付に係る負債が88,841千円、繰延税金負債が65,077千円増加したことによるものであります。

この結果、負債合計は10,541,772千円となり、前連結会計年度末に比べ1,471,470千円増加いたしました。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は6,351,333千円となり、前連結会計年度末に比べ1,277,165千円増加いたしました。これは主に利益剰余金が533,405千円、為替換算調整勘定が568,455千円増加したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第3四半期累計期間において新型コロナウイルス感染症拡大の影響はあるものの、各国の経済活動への規制緩和により景気の回復が進み、多くの顧客において引き続き生産活動は回復傾向となりました。当第3四半期の業績につきましても、通期業績予想と比較し堅調に推移しておりますが、ロシアによるウクライナでの軍事作戦や上海での新型コロナウイルス感染症対策によるロックダウンなど、依然として先行き不透明な状況が続いております。

このような状況を踏まえ、2022年6月期の連結業績予測につきましては、2021年8月13日の「2021年6月期 決算短信」で公表いたしました通期の連結業績予想から変更はありません。なお、今後業績予想に変更が生ずると判断した場合には速やかに公表いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,612,704	4,615,041
受取手形及び売掛金	3,267,224	3,508,176
商品及び製品	893,217	1,041,850
仕掛品	551,835	604,001
原材料及び貯蔵品	328,426	381,206
その他	550,936	588,917
貸倒引当金	△25,981	△28,939
流動資産合計	9,178,363	10,710,255
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,159,388	1,056,809
機械装置及び運搬具(純額)	1,527,725	1,678,892
工具、器具及び備品(純額)	149,777	147,843
土地	501,688	988,471
建設仮勘定	452,046	914,151
その他(純額)	117,589	122,728
有形固定資産合計	3,908,216	4,908,896
無形固定資産		
のれん	86,041	154,137
顧客関連資産	—	179,038
その他	20,538	36,721
無形固定資産合計	106,580	369,897
投資その他の資産		
投資有価証券	90,719	93,745
退職給付に係る資産	57,399	23,306
繰延税金資産	452,448	414,559
その他	356,127	377,829
貸倒引当金	△5,385	△5,385
投資その他の資産合計	951,309	904,056
固定資産合計	4,966,106	6,182,850
資産合計	14,144,469	16,893,105

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,251,801	1,460,888
短期借入金	2,864,148	4,060,906
1年内返済予定の長期借入金	982,132	861,361
リース債務	338,244	306,940
未払法人税等	198,183	152,575
賞与引当金	91,169	198,386
未払金	765,262	688,944
その他	92,928	89,123
流動負債合計	6,583,870	7,819,128
固定負債		
長期借入金	1,585,682	1,772,574
リース債務	398,654	254,625
役員退職慰労引当金	79,512	119,031
退職給付に係る負債	368,751	457,592
製品保証引当金	6,516	6,124
繰延税金負債	45,693	110,771
その他	1,621	1,923
固定負債合計	2,486,431	2,722,644
負債合計	9,070,302	10,541,772
純資産の部		
株主資本		
資本金	215,400	215,400
資本剰余金	190,034	200,209
利益剰余金	4,345,135	4,878,540
自己株式	△144,416	△128,827
株主資本合計	4,606,153	5,165,323
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△567	△1,469
為替換算調整勘定	△83,799	484,655
退職給付に係る調整累計額	△39,835	△38,678
その他の包括利益累計額合計	△124,202	444,506
非支配株主持分	592,216	741,503
純資産合計	5,074,167	6,351,333
負債純資産合計	14,144,469	16,893,105

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年7月1日 至 2021年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年7月1日 至 2022年3月31日)
売上高	12,954,652	14,063,910
売上原価	9,443,748	10,106,032
売上総利益	3,510,904	3,957,877
販売費及び一般管理費		
役員報酬	38,437	61,443
給料	1,088,898	1,139,937
賞与引当金繰入額	82,714	112,877
役員退職慰労引当金繰入額	3,974	7,176
退職給付費用	64,264	85,755
貸倒引当金繰入額	8,123	△345
減価償却費	124,708	161,367
のれん償却額	9,094	22,716
賃借料	160,256	149,611
研究開発費	21,904	23,769
その他	975,219	1,096,488
販売費及び一般管理費合計	2,577,597	2,860,799
営業利益	933,307	1,097,078
営業外収益		
受取利息	3,878	8,885
受取配当金	310	365
作業くず売却益	28,380	40,231
為替差益	5,004	71,936
その他	33,257	39,076
営業外収益合計	70,831	160,495
営業外費用		
支払利息	97,702	84,283
その他	10,144	7,764
営業外費用合計	107,846	92,048
経常利益	896,292	1,165,525
特別利益		
固定資産売却益	414	846
移転補償金	325,629	—
特別利益合計	326,044	846
特別損失		
固定資産売却損	2,464	0
減損損失	204,993	—
固定資産除却損	155,763	136
特別損失合計	363,220	136
税金等調整前四半期純利益	859,115	1,166,235
法人税、住民税及び事業税	253,177	313,102
法人税等調整額	46,891	63,110
法人税等合計	300,068	376,213
四半期純利益	559,047	790,022
非支配株主に帰属する四半期純利益	97,200	69,242
親会社株主に帰属する四半期純利益	461,846	720,779

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年7月1日 至 2021年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年7月1日 至 2022年3月31日)
四半期純利益	559,047	790,022
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	4,174	△902
為替換算調整勘定	331,623	648,499
退職給付に係る調整額	2,530	1,156
その他の包括利益合計	338,328	648,753
四半期包括利益	897,375	1,438,776
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	749,664	1,289,489
非支配株主に係る四半期包括利益	147,711	149,286

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)

第1四半期連結会計期間より、株式会社マインズの全株式を取得したことにより、同社を連結の範囲に含めております。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っておりますが、利益剰余金の期首残高に与える影響はありません。また、当第3四半期連結累計期間の損益に与える影響もありません。なお、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第3四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することといたしました。なお、当第3四半期連結累計期間の四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(追加情報)

(連結納税制度からグループ通算制度への移行に係る税効果会計の適用に関する取扱いの適用)

当社及び国内連結子会社は、「所得税法等の一部を改正する法律」(令和2年法律第8号)において創設されたグループ通算制度への移行及びグループ通算制度への移行にあわせて単体納税制度の見直しが行われた項目については、「連結納税制度からグループ通算制度への移行に係る税効果会計の適用に関する取扱い」(実務対応報告第39号 2020年3月31日)第3項の取扱いにより、「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号 2018年2月16日)第44項の定めを適用せず、繰延税金資産及び繰延税金負債の額について、改正前の税法の規定に基づいております。

(新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う会計上の見積りについて)

前連結会計年度の有価証券報告書の(追加情報)に記載した新型コロナウイルス感染症の収束時期等を含む仮定について、重要な変更はありません。

(企業結合等関係)

(企業結合に係る暫定的な会計処理の確定)

2021年7月1日に行われた株式会社マインズとの企業結合について、第1四半期連結会計期間において暫定的な会計処理を行っておりましたが、当第3四半期連結会計期間において確定しております。

この暫定的な会計処理の確定に伴い、無形固定資産である顧客関連資産195,000千円、繰延税金負債67,470千円が増加した結果、のれんの金額は暫定的に算出した金額218,342千円から127,530千円減少し、90,812千円となりました。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自2020年7月1日至2021年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	日本	中国地域	東南アジア/ 南アジア地域	欧米地域	計		
売上高							
外部顧客への売上高	3,834,620	2,814,575	5,143,563	1,161,893	12,954,652	—	12,954,652
セグメント間の内部 売上高又は振替高	293,537	203,617	29,395	116,376	642,927	△642,927	—
計	4,128,158	3,018,192	5,172,958	1,278,269	13,597,580	△642,927	12,954,652
セグメント利益	317,416	311,452	150,453	160,759	940,082	△6,774	933,307

(注) 1. 調整額は、セグメント間取引消去によるものです。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産の重要な減損損失)

「日本」セグメント及び「中国地域」セグメントにおいて、固定資産の減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、第3四半期連結累計期間において、「日本」において116,562千円、「中国地域」において88,430千円であります。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自2021年7月1日至2022年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	日本	中国地域	東南アジア/ 南アジア地域	欧米地域	計		
売上高							
一時点で移転される 財又はサービス	4,178,284	3,271,790	5,323,926	1,119,281	13,893,283	—	13,893,283
一定の期間にわたり 移転されるサービス	170,627	—	—	—	170,627	—	170,627
顧客との契約から生 じる収益	4,348,911	3,271,790	5,323,926	1,119,281	14,063,910	—	14,063,910
その他の収益	—	—	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	4,348,911	3,271,790	5,323,926	1,119,281	14,063,910	—	14,063,910
セグメント間の内部 売上高又は振替高	290,615	144,610	35,262	112,629	583,118	△583,118	—
計	4,639,527	3,416,401	5,359,188	1,231,910	14,647,028	△583,118	14,063,910
セグメント利益	425,513	337,712	204,882	134,793	1,102,902	△5,823	1,097,078

(注) 1. 調整額は、セグメント間取引消去によるものです。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（のれんの金額の重要な変動）

「日本」において、2021年7月1日付で行われた株式会社マインズとの企業結合について、第1四半期連結会計期間において暫定的な会計処理を行っていましたが、当第3四半期連結会計期間において確定しております。

この暫定的な会計処理の確定に伴い、「日本」において、のれんの金額が暫定的に算出した218,342千円から90,812千円に変動しております。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

該当事項はありません。

（収益認識関係）

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項（セグメント情報等）」に記載のとおりであります。